

教育広報

# いるま

第47号  
平成20年3月

題字：教育長 村野 志朗  
編集：教育広報いるま編集委員会  
発行：入間市教育委員会学校教育課  
電話04-2964-1111(内4145)



## 茶畑の四季

金子中学校 二年

北風

千  
約

春の茶畑

新芽の新鮮な緑色が  
一面に広がる

夏の茶畑

緑が一層青々として  
空の色がより緑を引き立たせる

秋の茶畑

純白の小さな花が咲き  
もうすぐ冬が来ることを知らせる

冬の茶畑

花が散り  
冷たい風が通り抜ける

春夏秋冬

表情を変えていく  
私の好きな茶畑の風景



# 「確かな学力の向上をめざす」

## はじめに

入間市では、学校教育の基本方針を「生きる力を育む学校教育の推進」と位置づけ、教育内容の充実と教育環境の整備を図っています。子どもたちが、主体的・創造的に生きていくことができるように「生きる力」を育む取組をしています。

特に、子どもたち一人一人に基礎基本を確実に身につけさせ、豊かな人間性を育むためにそれぞれの学校においても、特色ある教育活動を日々展開してきました。

このような中、平成十九年度においては、小学校では豊岡小学校・東町小学校が、中学校では、西武中学校・野田中学校が研究に取り組み、その成果を発表しました。

それでは、研究の内容についてお知らせします。



# 「基礎・基本の定着を目指した学習指導」

算数科の指導を通して

豊岡小学校

豊岡小学校では、平成十八・十九年度の入間市教育委員会並びに入間市教育研究会の委嘱を受け、算数科の研究に取り組みました。

児童一人一人に確実に基礎・基本を身につけさせるためには、「個に応じた指導」が最も重要だと考え、算数の授業において学習形態や指導法の工夫を図りました。また、授業における「学びのルール」の定着や授業開始三分間の計算練習「チャレンジ」に全校で取り組み、算数の基礎・基本の定着が効果的に図れるようにしました。個に応じた指導の工夫とし



チャレンジに真剣に取り組む

ては①一斉指導やＴＴ指導での小黒板を用いた少人数学習②コース別や習熟度に応じた学習③ヒントカードやワークシートを活用した学習などがあげられます。また、「チャレンジ」の継続により計算力や集中力の育成及び個々のつまづきの発見と支援の具体化を図りました。

二年間の研究の結果、児童の学ぶ意欲や基礎的な計算力が向上し、他教科の学習も主体的に取り組むようになりました。実態調査によれば昨年度に比べ基礎学力調査の結果がほとんどの学年で伸びています。

教師もこの研究に組織的に取り組み、日常的な教材研究と授業の工夫から指導力の向上が図れました。また、一人一研究授業と参加型の研究協議により、実践的な研究を深めました。

今後とも地道な研究を継続し、児童の基礎・基本の定着と学ぶ力の育成を図っていきたいと思います。

# 「生きる力」みなぎる あずっ子

「話す・聞く」活動で伝え合う力を育てる

東町小学校

本校は、平成十八・十九年度の二年間、入間市教育委員会・埼玉県国語教育研究会等の委嘱を受け、国語科の研究に取り組んできました。

『聞く』ことに焦点を絞り、育てたい「聞く力」の内容や系統、「聞くこと」の指導におけるメモの活用等について、研究を深めました。

育てたい「きく」能力を  
「聞く」(hear⇒聞く)  
「聴く」(listen⇒聞き入れる)  
「訊く」(ask⇒尋ねる)  
の三段階とし、研究しました。

一、言語環境を整え正しい話し方や聞き方を日常的に指導すれば、話したり聞いたりすることが意欲的になる



体育館での全体会・記念講演

二、発達段階に応じた「身につけさせたい聞く力」を整理し、授業の中で聞き手に対して積極的な支援と評価を行えば聞く力は向上すると考え、具体的には、

- ①全学級で授業研究の実施
- ②国語環境の整備・充実
- ③意識・実態調査の実施
- ④国語タイムの充実

等を行いました。

例えば「国語タイム」では、

- うさみみタイム(スピーチ)
- 詩を読む時間
- 群読タイム
- 俳句の時間
- お話の時間(校内放送)
- ことばの時間(文法学習)
- とっておきの話(先生の話)

の取組を行いました。

また、元群馬大学教授の高橋俊三先生をはじめ、多くの指導者の先生から、きめ細かい指導をいただきました。

その結果、子ども達の聞く力は確実に向上し、話し手も聞き手のことを考えられるようになってきています。

# 「学ぶこと」「働くこと」を 大切にしている生徒の育成

西武中学校

近年のニート・フリーター問題や高校中退の問題を踏まえ、生徒に望ましい勤労観・職業観を育み、主体的に学ぼうとする意欲を向上させるための研究を行ってきました。

本年度は、昨年十一月九日に中間発表（全学級の授業公開と講演会）を開催しました。第一学年は「社会体験チャレンジ中間発表会」、第二学年は「上手な断り方を考えよう」、第三学年は「進路の最終決定をしよう」、明星学級は「サツマイモの収穫」を題材として授業を行いました。



サツマイモの収穫のようす

アンケートの結果、人間関係形成能力が各学年とも課題として浮かび、ロールプレイング

やソーシャルスキルトレーニングを取り入れた授業の展開を進めてきました。



2年生の授業のようす

入間市教育委員会学校教育課指導主事の古谷進先生から、「どの学級も落ち着いた雰囲気の中で、生徒が授業に取り組んでいます。」という指導講評をいただきました。

講演会では、鶴ヶ島市立南中学校教頭の串田功先生から、「これからの進路指導・キャリア教育」の演題で、キャリア教育が学校に求められる背景やキャリア教育の意味、キャリア教育推進上の具体的方策などを分かりやすく講演していただきました。

# 「全教科・領域におけるコミュニケーション能力の向上」 （道徳・特活におけるソーシャルスキルの授業を中心に）

野田中学校

平成十九・二十年度に入間市教育委員会、入間市教育研究会の委嘱を受けて、「全教科・領域におけるコミュニケーション能力の向上」を研究主題として研究を始めました。平成十七・十八年度には、全教師が、年一回ずつ「コミュニケーション能力の向上」をテーマに授業研究会を実施しました。これらの積み重ねを土台に、さらに今年度は、ソーシャルスキルの向上を図るべく、道徳や特活の授業を研究し発表しました。

本研究では、授業におけるコミュニケーション能力を、  
○言葉や動作、文章表現で相手に分かりやすく伝える力  
○相手の話や説明を正しく理解する力  
○話し合いや活動の場面で相手の良さを認め、互いに考えや技能を高め合うことができる力  
ととらえ、以下のような研究仮説を立てました。  
①コミュニケーション能力を向上させる授業や活動場面を工夫

し、意図的に生徒に働きかけると、生徒の間でよりよい人間関係や互いに高め合う集団が育つ。  
②高いコミュニケーション能力を身につけた集団は、互いに高め合う過程で、基礎学力や発展的な問題解決の能力が向上する。



ソーシャルスキルの授業

研究推進委員会を中心に、道徳・特別活動研究部、総合的な学習の時間研究部、調査研究部の三つの部会に分かれ研究を進め、平成二十年度には、全教科を中心とした発表を行う予定です。足かけ四年に及ぶ研究の成果が各授業の中で発揮され、本校の学力向上につながればと思います。

# おわりに

豊岡小学校では、算教科を通しての基礎・基本を目指した学習指導を研究しました。東町小学校では、「話す・聞く」活動で伝え合う力を育てるため、国語科の学習指導を研究しました。両校とも国語や算数の授業の中で一人一人の力を伸ばしていくことに力を入れていきます。

また、西武中学校では、「学ぶこと」「働くこと」を大切にしている生徒の育成を目指してキャリア教育の研究を、野田中学校は全教科全領域を通しての「コミュニケーション能力」の育成・向上に力を入れてきました。教科や領域の内容は異なってもそれぞれの学校の子どものたちの実態を的確に把握し、「今、必要としていること、これから子どもたちに身につけてほしいこと」について、日々の教育実践を丁寧に積み重ねた結果の発表であったと思います。その他の小・中学校においても子どもたち一人一人が主体的・創造的に生きていくことができるよう取り組んでいます。

# みんな大好きあずまつ子

あずま幼稚園長 神山 菊枝

本園は昭和三十一年に開園し、今年で五十一年目を迎えました。園児数七十五名です。近くには小学校二校があり、南側の小高い丘には、川を挟んで茶畑が連なっています。恵まれた自然環境の中で、子どもたちは元気いっぱい、幼稚園生活を送っています。

毎週水曜日には、園庭開放もしています。未就園の小さなお子さんが対象です。幼稚園児とともに、とても楽しそうに遊んでいます。そこは、母親同士の交流や憩いの場ともなっています。毎月の誕生日会では、人形劇、コーラス、手品等を行って行きます。これは、地域のボランティアの方々や保護者の皆さんが演じることで、子どもたちには、緊張感と好奇心が増すようです。このような非日常的な体験が子どもたちの五感を刺激し、豊かな心を育むものと考えます。

## 朝のセレモニー

毎朝子どもたちは、母親の手を振り切つて担任に跳びつき、担任とのスキンシップから一日を始めます。このように、一人一人の心のぬくもりを伝えます。担任は、一人一人に向き合い、子どもたちが安心して一日がスタートできるように日々心がけています。

## 地域と交流、様々な体験

本園では地域の人々、公民館、消防署等と交流を密にして、地域に密着した活動を展開しています。

絵本の読み聞かせは、定期的に関書館のボランティアの方や保護者の方々に協力していただいております。



しいたけ狩り

読み聞かせが終了した後は、参加した保護者同士のコミュニケーションの場になっています。読み聞かせを聞いている満足そうな表情に触れる時とても意義のある一時だと実感します。



読み聞かせ

# 「確かな学力」「豊かな心」の育成

高倉小学校長 渡辺 司

本校は、昭和五十九年に開校しました。高倉の高台に位置し、茶畑と雑木林という豊かな自然に囲まれ、子どもたちは、元気に学校生活を送っています。学校教育目標の「進んで学ぶ子」「仲よく協力する子」「健康でねばり強い子」を目指し、学校、家庭、地域が一体となつて取り組んでいます。

## 「確かな学力」の向上を目指して

本校では、「確かな学力の向上をめざして」のテーマのもと、読む力と学ぶ力の向上を目指した研究に取り組んでいます。学習に重要な「読む力」と学習を支える「学ぶ力」を高めることで、子どもたちに「確かな学力」を育てていこうと考えています。

本年度は、校内研究の取組の一つとして学校だけでなく、家庭と協力



授業風景

しながら子どもたちの学ぶ力を高める「親子でチャレンジ」を始めました。「親子で読書」「親子でハウスキーピング」など、学校から投げかけた企画を各家庭で実践していたら、その成果や感想を生かしながらさらに学校で取り組むというものです。子どもたちのやる気を育てるために、学校、家庭が一致協力して取り組んでいます。

平成二十年十一月七

日には、研究発表会を予定しています。

## あいさつのよくできる学校に

「おはようございます」子どもたちの元気な声が通学路に響きます。元気にあいさつのできる学校を目指し、教職員、保護者、地域の方が校門や通学路に立ち、子どもたちとあいさつを交わっています。



朝のあいさつ

数年にわたる取組で、いろいろな方から「よくあいさつのできる子どもたちだね」というおほめの言葉をいただきました。ようになつてきました。



紹介  
こちらです  
★  
★  
東町中学校

# 「ふれあう活動」をとおして

## 豊かな心を育む

黒須小学校長 逸見 久良

本校は、開校三十六年目を迎えました。校舎の近くには入間川と霞川が流れています。また、雑木林（通称どんぐり山）と広いグラウンドに恵まれ、五百九名の児童たちは明るく元気に学校生活を送っています。

### 2「土から学ぼう」

農園を活用しての野菜栽培から、環境の大切さ、楽しみや苦勞、そして自然の恵みへの感謝の気持ちを育てています。六年生は、陶芸の指導者を招いて卒業制作に取り組み、土と共に生きていく人間の姿、環境を守る大切さなどを学んでいます。

学校教育目標の「なかよくする子」「かんがえる子」「がんばる子」の育成を目指し、学校、家庭、地域が連携した取組を推進しています。

### 本物にふれる活動

#### 1「菊(福助)作り」

武蔵花の会の指導者を迎え、福助作りに取り組んでいます。活動を通して、大輪の菊にするには人の成長と同じで、「がまんをさせる」「早寝・早起き・朝ご飯」が大切であること等、花に例え



緊張した陶芸教室

#### 3「オペラを聴こう」

イタリアでオペラ歌手として活躍された方を招き、歌手になるまでの

苦勞した体験談やオペラを聴きました。響き渡る迫力ある声量から努力することの大切さも学んでいます。

### 地域と一緒に

#### 取り組む活動

PTA役員さんを中心に、黒須小フェスティバルが開催されています。十トントラックを野外ステージにして、児童の発表やゲーム、地域の黒須離子保存会のお囃子が行われます。また、模擬店、菊花展、バザー等も同時開催されます。地域の方々のご協力により、温かい心の交流が展開し、豊かな心が育まれています。



楽しかったフェスティバル

# 自立できる生徒の

## 育成を目指して

東町中学校長 清水 宅郎

本校は、今年二十周年を迎えました。昭和六三年四月に生徒数六百四十八名で開校、以来十九年間に三千四百四十七名の卒業生を送り出してきました。

### 保護者・地域とともに

#### 行う資源回収

全校生徒が参加し、古紙やアルミ缶回収などの東町中学校リサイクルプロジェクト(資源回収)を行っています。この活動を通して、生徒が環境問題を考え、地域を回る中で、礼儀・奉仕・協力の精神や上級生と下級生の望ましい人間関係の確立を図っている。



創立20周年記念式典

学校教育目標は、「自立できる生徒の育成」です。具体的には「進んで学ぶ生徒」「心豊かな生徒」「健康でたくましい生徒」の育成を目指し、



資源回収風景

ます。この活動を実施するには、保護者や地域の皆様の全面的な協力が必要です。これからも保護者、地域の皆様とともにこの活動を推進していきたいと考えています。

### 心を豊かにする

#### 学校行事

本校の伝統として誇れる行事に体育祭や合唱祭があります。各学年の団結力には目を見張るものがあり、体育祭では、男子全員による組体操、女子全員によるダンスは最高に盛り上がりがあります。また、合唱祭は、市民会館で行い、多くの保護者の皆様方が鑑賞に訪れ、毎年大きな感動に包まれます。これらの学校行事を通して、生徒は「心を豊かに」「健康でたくましく」育って欲しいと思います。



学校  
今回の学校  
黒須  
高倉小  
あずま幼稚園

# 安全で安心できる学校づくりの推進

## 子どもたちの安全を守る取組から

市内の交通事故や不審者による事件は、本年度は減少傾向にあるものの、決して安心できる状況とは言えません。

入間市教育委員会では、学校・家庭・地域が連携し、安全で安心できる学校づくりを目指して取り組んでいます。

### 1 「交通事故0」を目指して

本市では、毎年、小・中学生による交通事故が三十件ほど報告されています。すべての児童生徒を交通事故から守るために、「交通事故0」を合言葉にして日々取り組んでいます。

交通事故の原因の多くは、自転車による飛び出します。各学校では、年度当初に市の交通安全協会や各校PTAにご協力いただき「交通安全教室」を行っています。交差点や踏み切り等での自転車の安全な乗り方や

※「ブ・タ・ベル・サ・ハ・ラ」等、管理のしかたも含め学んでいます。また、自転車の免許制度を導入し免許取得を義務付けたり、埼玉県自転車大会に出場して自

転車技能や交通ルールの知識を高め、見事上位に入賞したりしています。また、子どもだけでなく、お年寄りも交通事故から守ることをねらいとして小学生と地域のお年寄りが一緒に交通安全教室を行うなど、工夫した交通安全教育に取り組んでいる学校もあります。

登下校に際しては、各学校にスクールガード（見守り隊）が組織され、通学路の巡回指導や危険箇所の見回り等に、市の交通指導員の皆様と共にご協力いただいています。登録者数はおよそ二千五百人にも達しています。

### 2 「不審者事故0」を目指して

不審者対策は、学校だけでなく警察や自治会、敬老会やPTA等、多数の関係団体の皆様にご協力いただいています。学校では、過去に不審者が出没した場所や、一人では危険と思われる地域、「子どもを守る一〇〇番の家」の所在地等を地図に示した安全マップを作成して各家庭に配布し、注意を呼び

かけています。小学校一年生にはホイッスル、五年生には防犯ブザーを配布し、万が一に備えて身に付けさせています。また、不審者が出没したときはその情報は即座に市内全ての小・中学校に流れ、必要に応じて学校で安全指導を行った地域に協力を依頼して下校指導に当たってもらったりしています。最近では、金子・東金子・藤沢・東藤沢地区にAPOC（ア

ポック／地域防犯ネットワーク）が組織され、警察から直接地域に情報が寄せられ、地域による自主防犯活動が行われるようになりました。

そのほか、学校や地域ごとに工夫し、様々な対策が講じられています。子どもたちの確かな安全を守るには、学校・家庭・地域が互いに協力し合い進めることが何より大切です。

※ブ・タ・ベル・サ・ハ・ラ  
ブ プレーク  
タ タイヤ  
ベ ベル  
サ サンドル  
ハ ハンドル  
ラ ライト

## 不登校を未然に防ぐ取組

今回は、第二回不登校を考える講演会の内容を紹介します。講師は武蔵国際総合学園の前校長加藤宣彦先生です。演題は「やる気を起こさせるほめ方・しかり方」です。

### 1 やる気を出す条件

- ① 健康である
- ② 誰かに愛されている
- ③ 誰かに認められている
- ④ 夢がある

・逆があるとやる気は出ない

### 2 夢づくりについて

子どもはたわいのない夢をたくさんもっている。たとえかわなくても、夢に向かったプロセスは次の夢につながる。たわいのない夢をつぶさないようにしてほしい。

### 3 ほめ方のコツ

- ① 個人内評価をする
- ② その子のよいところをほめる
- ③ 表現力を豊かに、具体的に

- ③ 人の口も借りよ
- 例「〇〇がほめてたよ」

### 4 しかる時のタブー

- ① ついでに叱るな
- ・ 叱ることは一つだけ
- ・ 手短かに
- ② 比べて叱るな
- ③ 人格まで否定するな

### 5 その他

- ① 人は誰でもふれあいを求めている
- ・ 日本人はふれあうのが苦手
- ・ 「言わなくても分かってくれる」という気持ちがある
- ② 母子分離不安をなくすために
- ・ 思い出づくりをする
- ・ 家族の思い出がたくさんある子ほど、やる気は出る
- ③ 人は誰でも存在感を持ちたい
- ・ 認められる喜びを感じさせたい
- ・ その子の「良いところ」を探してあげたい
- ・ ほめられれば心が通じる
- ・ 心が通じていれば、いくらしかられても平気なはず

\*この日の講演会ではグループエンカウンターも行われました。参加者の表情がたいへん明るくなり、交流も生まれま

さらに元気な学校を目指して

藤沢北小学校

僕たちの学校は、とても元気です。その元気の元の中でも自慢したいことが二つあります。

一つ目は朝マラソンです。みんなは、毎朝、学校に来ると校庭を走ります。寒さや暑さにも負けずがんばっています。そのおかげで学校を休む人が少ないのだと思います。

そして二つ目は、お父さんたちが行っている北父会です。これは北小のお父さんたちの集まりで、僕たちのために色々やってくれます。特に力を入れてるのが北父会祭りで、学校でお祭りを開き、子どもたちと遊ぶのです。今年は十二月一日でイライラ棒やキックターゲット等みんな夢中で過ごしました。ほかにも遊具のペンキ塗りや免許をもらえる自転車教室、タグラグビー等、毎年楽しみます。

僕たちとお父さんたちが力を合わせ、さらに元気な北小を目指していきたいと思えます。

(六年 平野皓大)



伝統のある「ぶしっ子まつり」

仏子小学校

仏子山が赤や黄色に色づくころ、みんながとても楽しみにしている「ぶしっ子まつり」があります。これは、子ども、保護者、地域の方々との交流を目的とする行事です。PTAの役員さんが中心となり、今年は十一月十七日(土)に行いました。

内容は、カレーや焼きそばなどの飲食・遊びコーナー・バザー・先生方が育てた大根の販売・婦人会のミサンガ作り・埼玉土建の方の木工プレート作り・健全育成会の方の独楽作りなどがあります。バザーで得たお金で、図書室の本を購入しています。



僕は、大根販売の手伝いをしました。初対面の人と会話することができて楽しかったです。たくさんの人とふれあうことのできる楽しいまつりです。

(六年 峰岸 朋宏)



「お茶が大好きです」

新久小学校

ぼくたちの通っている新久小学校は、校庭の前に茶畑がひろがり、近くには霞川が流れている自然がいっぱいの学校です。

新久小の自慢は、お茶についての学習をいろいろな形で経験できることです。茶畑オリエンテーリングでは、たてわり班で茶畑のごみ拾いをしながらゲームや、お茶に関係したクイズをします。また、毎年全校でお茶つみをし、その日のうちに加工していただきます。

PTAの方が市販の袋にいれてくださり全校の友だちに配ります。総合の時間には、四年生が手揉み茶作りをして小袋にパックしたお茶をみんなの家で飲んでもらいます。



自分たちでつんだお茶はとてもおいしく、毎年の茶つみをみんな楽しみになっています。

(六年 篠崎 良彦)



ファッションショーに挑戦

西武中学校

西武中学校のある仏子地区には、かつては世界に誇るレースの工場がたくさんありました。その功績をたたえて、昨年の夏休みに人間市文化創造アトリエ「アミーゴ」にて、レースについての発表会が行われました。その折に、学生によるレースのファッションショーがあり、西武中学校の生徒も登場しました。



わが町の歴史をふり返り、時代の变迁に思いをはせ、今の時代をどう生きるか、今一度考えてみる良い機会になりました。

『四つの種』をまく

向原中学校

向原中では、現在、生徒会を中心に、「あいさつの種」「行事の種」「奉仕活動の種」「あたりまえの種」をまき、全校生徒で、市内一の中学校を目指しています。「あいさつの種」では、あいさつがたくさん飛び交うような学校を目指します。「行事の種」では、委員会を中心に新しい企画を取り入れた充実した行事の実施を目指します。「奉仕活動の種」では、お世話になっている地域に少しでも貢献しようとして通学路清掃、老人施設訪問などのボランティア活動が本校の伝統的な活動として育っています。



「あたりまえの種」では、名札・服装・清掃といったあたりまえのマナーや活動があたりまえのこととして実践できるようにすることを目指します。このように「四つの種」をまくことによって、生徒の意識が高まり、活動が活発になってきています。

(二年 長井 愛)

# ぶどうのつゆりす

## 埼玉県知事賞受賞

藤沢小学校

食農教育が重要視されている昨今、JA堀兼で『農』に関する自由研究の表彰式がありました。

表彰式で本校四年生の、田村桃香さんが「ぶどうがどのようなことができるか」を調べた研究で「埼玉県知事賞」を受賞しました。田村さんの祖父は、福岡県で農家を営んでおり、ぶどうを育てています。田村さんは、夏休みを利用して、祖父の家でぶどう作りを手伝いました。

内容は、祖父の栽培している種無し巨峰について年間を通しての仕事をまとめたものです。実際に、収穫や出荷を体験したり、凶鑑等を利用して、巨峰の栄養について調べたりしました。本校の四年生は、総合的な学習の時間を利用して様々な野菜作りにチャレンジしたり、大豆の苗を植え、収穫した大豆で納豆づくりを体験したりしました。田村さんは、この受賞をきつ

かけに、食育に関する学習に興味を持って取り組んでいます。



作品の前で

## 交通安全

### 世代間交流事業

藤沢東小学校

十一月十日(土)に本校では、「彩の国教育週間」の取組として地域公開授業を二校時から四校時まで実施しました。その中で全ての学級で「命に係わる授業」を行い、参観していただきました。その一つとして、埼玉県交通安全母の会連合会の主催による「交通安全世代間交流事



横断の仕方の説明を聞く子どもたち

業」を行いました。この事業は、子ども・親・祖父祖母の三世代が一堂に会し、交通安全に関する活動を体験するものです。それを通して交通安全に関する意識を高め、地域の安心・安全なまちづくりの促進を図る目的で行われました。当日は、三年生の児童を中心に保護者やその祖父祖母の方々が参加しました。交通指導員による交通安全についてのシヨートドラマを見たり、体育館のフロアに設けられた模擬交差点で横断の仕方を体験したりしました。みんなで交通ルールを守って生活することで、地域の安全を確保していくことの大切さを改めて実感しました。

## 様々な活動に

力を発揮しています

東金子中学校

本校では「埼玉県一の学校を目指そう」を合言葉に、生徒主体の活動が展開され、部活動をはじめ学校内外での地道な努力や積極的な取組が評価されています。その中から、「税に関する標語」で大きな賞を受賞した作品と、制作者のことばを紹介しします。

### ☆関東信越国税局長賞

#### 「税を知り

納める父の汗を知る」

金崎 友希さん(三年)

私は、税というものをよく知らなかったので、母に「税って何？」と聞きました。すると、「お父さんが一生懸命働いて貰う給料の一部が国へ納められて、国民のために使われるお金だよ。」と教えてくれました。父が汗して納める税、使う側にも汗を知ってほしいとの願いもあり、この標語ができました。受賞の連絡を頂いたときは、本当に驚きました。授賞式は初めてだったので、とても緊張しましたが、すばらしい賞を頂いてうれしかったです。

## 編集後記

降雪の多い寒い冬でしたが、樹木はしっかりと芽をふくらませ春の訪れを感じさせます。

今回の教育広報では、研究委嘱校の確かな学力の向上をめざした研究実践の内容を紹介させていただきました。

ご多用の中、広報発行にあたり、執筆等ご協力いただきました方々に心より感謝申し上げます。



表彰状を手に